

山田クリニック ぽすと

平成27年 5月号

〒522-0054 彦根市西今町 923-1

Tel 0749-22-7005 Fax 21-3981

<http://www.hikone-yamadacl.com>

診察室から

先月に続いて認知症のお薬の話です。先月は認知症そのものに効果が認められたお薬について説明しましたが、これらのお薬が発売されるにつれて認知症患者の数は増えています。ごく最近の統計では認知症患者が450万人を超えたとの報告がありました。本当にそんなに増えているのでしょうか？ お薬が発売され、販売促進のために認知症に関する情報が医師に伝わり、認知症に対する投薬が簡単に行われ、統計的な認知症が増えていると思います。老化による自然な物忘れを認知症とするかどうかで認知症患者は簡単に増加します。話が脱線しましたが、興奮や徘徊、怒りっぽい、指示をしても抵抗するなど、認知症に伴う問題行動が見られる方がおられます。このような方には向精神薬と呼ばれるお薬を処方して、日常生活を穏やかに過ごせるように配慮します。この向精神薬の使い方が認知症治療の最大のポイントで、穏やかに人生の終末を迎えていただくために担当医は知恵を絞る必要があると思います。向精神薬を自信を持って処方できてこそ、認知症治療を行う資格があると思います。今回は認知症の終末期の話です。

健康コラム

あなたは「がん派」？それとも「認知症派」？

日本では昔、死因の多くが結核でした。少し前は脳卒中です。そして現代は3人に1人は「がん」で亡くなっており、今後はさらに認知症と老衰急増すると見られています。近い将来日本人の死因は大雑把に言えば「がん」か「認知症」になると見られています。ある講演会で「がんと認知症。もし選べるとすればどちらで死にたいですか？」の質問をすれば、いずれの会場でも、「がん」を選ばれるのが9割をしめて、「認知症」は全く人気がないそうです。筆者（男性）は、本当は誰もが長生きをして、老衰と願うわけですが、歳老いて長年の不摂生な男性などはせめて「認知症」を希望すればいかがでしょう。そもそも男性は平均寿命にして7歳ほど短命のため、なかなか認知症まではたどりつけません。介護施設などに入所の9割が女性だそうです。男性はそこにたどり着くまでに、がんや脳卒中に心筋梗塞でほとんどが死にたえてしまうのです。そんな荒波を越えた《エリート男性》のみが認知症になれるのです。日本人は皆、40歳になれば介護保険料が徴収されています。認知症の捉え方も考え様で、入浴サービスやデイサービスに通うことは決して卑下するものではないのです。サービス利用も若い時とは違った味わいがきっとあると思います。

とびくす

カーネーション

現代のような母の日ができたきっかけは、20世紀の初めごろにさかのぼります。アメリカに住むアンナ・ジャービスという少女が、自分を苦勞して育ててくれた亡き母に、追悼の意味をこめて白いカーネーションを祭壇に飾ったのが始まりとされています。やがてキリスト教徒を中心に母親にカーネーションを贈る習慣になり、全米へと広がりました。

診察医のご案内

	月	火	水	木	金	土
午前	吉田	山田	吉田	山田	山田	山田
午後	吉田	吉田	×	×	吉田	×
午前診察	9:00～12:00		休診日：日曜・祭日			
午後診察	4:30～6:30					

ご連絡

健康保険証の期限切れにご注意ください。受診の際には、ひと月、1度は必ず、保険証の提示をお願いします。

